

＜対策のポイント＞

花粉症対策苗木への植替の支援、花粉飛散防止剤の実用化に向けた林地実証試験、スギ・ヒノキの雄花着花状況調査、スギ雄花着花特性の高精度検査手法の開発を進めるとともに、これらの成果の普及啓発等を一体的に実施し、総合的に花粉発生源対策を進めます。

＜政策目標＞

スギ苗木の年間生産量に占める花粉症対策に資する苗木の割合の増加（約4割〔平成29年度〕 → 約7割〔令和14年度まで〕）

＜事業の内容＞

1. 総合的な花粉発生源対策の強化及び普及 10,000（10,036）千円

○ 国や県等が取り組む花粉発生源対策に係る調査及び技術開発の成果の普及等を支援します。

2. 花粉症対策苗木への転換の促進 62,468（53,162）千円

①花粉症対策苗木への植替促進

花粉発生源となっているスギ林等の植替やコンテナ苗植栽結果の検証等を促進するため、加工業者等が行う森林所有者への働きかけ等を支援します。

②花粉症対策品種の円滑な生産支援

スギ雄花着花特性を短期間・高精度で検査する手法の開発及び少花粉ヒノキのミニチュア採種園の管理に係る技術的指導を支援します。

3. スギ花粉飛散防止剤の実用化試験 29,263（29,263）千円

○ 花粉飛散防止剤の実用化を図るため、空中散布の基本技術の確立、低コスト・高品質な大量培養技術の開発等を支援します。

4. スギ・ヒノキ雄花の着花量調査の推進 15,199（15,199）千円

○ スギ雄花着花状況等の調査、ヒノキ雄花の観測精度向上のための調査手法の開発を支援します。

＜事業イメージ＞

花粉症対策苗木への転換の促進

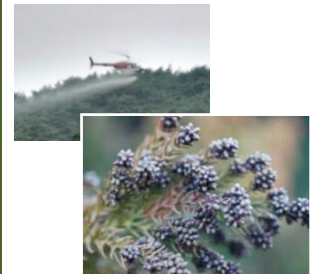
・加工業者等が行う森林所有者への花粉症対策苗木への植替えの働きかけ



・スギ雄花着花特性を短期間・高精度で検査する手法の開発  
・少花粉ヒノキミニチュア採種園の管理技術の指導

スギ花粉飛散防止剤の実用化試験

・スギ花粉飛散防止剤の空中散布技術の開発  
・低コスト・高品質な大量培養技術の開発



＜花粉飛散防止剤により枯死した雄花＞

スギ・ヒノキ雄花の着花量調査の推進

・スギ雄花着花状況等の調査  
・ヒノキ雄花観測技術の開発、試行的な着花状況調査の実施  
・ドローンの活用等による効率的かつ高精度な着花量推定手法の開発



＜雄花着花量調査＞

取組成果等情報の集約、一体的に普及啓発

総合的な花粉発生源対策の強化及び普及

・上記の取組状況や調査成果、特色ある地域の植替促進取組等の情報収集及び発信

＜事業の流れ＞



# (参考資料) 花粉発生源対策に関連した予算措置

【令和2年度予算概算決定額（令和元年度予算額）】

## 1. 林業イノベーション推進総合対策のうち早生樹等優良種苗生産推進対策 128,824（-）千円

早生樹の種穂の採取源の充実や無花粉エリートツリーの開発など、優良種苗を安定的に供給するための取組を支援します。

## 2. 林業成長産業化総合対策のうち林業・木材産業成長産業化促進対策 (コンテナ苗生産基盤施設等整備) 8,603,809（8,888,322）千円の内数

低コストで安定的に供給するコンテナ苗（花粉症対策に資する苗木を含む）の生産施設等の整備を支援します。

## 3. 花粉発生源対策促進事業（農山漁村地域整備交付金で実施） 94,275（92,714）百万円の内数

花粉症対策苗木に対する需要の喚起を図るため、スギ人工林等の花粉発生源となっている森林を対象として、花粉発生源の立木の伐倒・除去及び花粉症対策苗木等の植栽に必要な経費の一部を支援します。

※上記の取組を推進することにより、花粉症対策に資する苗木の供給体制が整い次第速やかに、スギを植栽する場合には原則として花粉症対策に資する苗木のみを森林整備事業の補助対象とすることを目指します。

【お問い合わせ先】

	林野庁森林利用課（03-3501-3845）
関連対策1. 2の事業	林野庁整備課（03-3591-5893）
関連対策3の事業	林野庁整備課（03-3502-8065）